

さいとう きしお
斉藤 喜志雄 議員

幼児教育・保育の充実について

- ① 社会・就業構造の著しい変化に伴い、わかば幼稚園では「異年齢保育」「預かり保育」「満3歳児保育」など先進的な幼児教育の実践を通し、多様化するニーズや幼児期にふさわしい発達を促す教育を進めてきているが、その成果や課題、今後の方向性と対応等について伺う。
- ② 就学前の教育・保育を一体として捉えた総合施設の設置や総合的な教育・保育の提供を求める世論の高まりを受け、「認定子ども園」制度が創設された。

そこで、効率的な施設運営の観点から「認定子ども園」に対する評価（所見）や設置に向けた将来展望について伺う。

教育長 ①わかば幼稚園では、「預かり保育」を無料で行い、「異年齢保育」では、年長児は「思いやり、規範意識、リーダーシップ」が育ち、年少児は、「あこがれ、希望」の心が育っているなどの成果があると考えている。

課題としては、少子化による入園児の減少、保護者の多様なニーズや預かり保育、特別支援教育の充実、幼稚園と小学校の連携などの対応が必要と考えている。

今後は、現事業を積極的に進め、特別支援児童への対応の充実、小学校への引き継ぎを行うための専門性を有する保育者の育成と確保、地域の方たちとのつながりを深め、これらの方々の教育力を活用していきたい。

②本町では、幕別町立保育所民営化計画で、「幕別中央保育所とわかば幼稚園」を今後の入所児童の状況等を勘案しながら教育委員会と協議を進め、認定こども園制度の導入を視野に入れ、民営化を検討すると位置づけられている。

政府は、幼保一元化と認定こども園制度の改革を含めた「仮称・こども園」制度の新設に向け、作業を進めているが、今後の推移を見ながら対応を検討したい。



異年齢保育の様子

命を大切に 教育の推進について

子どもたちが生き生きと学校生活を送ることは、誰もがひとしく願うところです。昨今の子どもの自殺は、どの学校の、どのような児童生徒でも起こりうるという認識を持って、万全の指導体制で教育活動に当たる必要性が生じているものと考えます。

については、町教委として、子ども達の自殺をどのように受け止め、不登校やいじめの根絶を含めて、自他の命を大切に教育の推進などについて、学校現場にどのような取組を期待し指導しているか伺う。

教育長 命を大切にする教育の推進について、学校におけるすべての教育活動との関連のもとに、小学校では、「各学年を通じて自他の生命を尊重する心を育てることに配慮すること」、中学校では、「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重すること」を道徳教育に位置づけ、各学校において道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力して命を大切にする教育の推進に当たっている。

教育現場に携わるすべてが問題の重大性を認識し、いじめの兆候をいち早く把握し迅速に対処する必要性と、いじめを隠さず、家庭・地域と学校・教育委員会が連携して対処していくべきものと考えている。